

松戸市・新拠点ゾーン

パブリックスペースからの まちづくりワークショップ 第3回が開催されました！

日時：令和4年12月17日

会場：松戸市民会館

参加者：27名

主催：松戸市公園緑地課・松戸駅周辺整備振興課

運営：株式会社URリンケージ

設計組織プレイスメディア

協力：千葉大学大学院園芸学研究科

【参加者】

「暮らし」に関わる市民
地元町会自治会（15名）
地元大学生（12名）

【ディスカッションサポート】

横張 真 教授（東京大学大学院工学系研究科）

宮城 俊作 教授（東京大学大学院工学系研究科）

武田 史郎 教授（千葉大学大学院園芸学研究院）

霜田 亮祐 准教授（千葉大学大学院園芸学研究院）

令和4年12月17日に、新拠点ゾーン・パブリックスペースからのまちづくりワークショップの第3回を開催し、新拠点ゾーン周辺の「暮らし」に関わる地元自治会の皆様と、地元の大学生、計27名にご参加いただきました。このワークショップは、街の新しい「使い方」を話し合い、新拠点ゾーンの公園の「あり方」や、新しい「使い方」を見出すことを目的に行われました。日々の暮らし・生活・安全安心を軸とし、日常生活を重視した「使い方」について多くの意見が出ました。松戸中央公園や相模台公園の既存樹は、残すもの、更新するものをしっかり整理しながら大事に継承することや、賑わいや憩いが生まれる広場づくりについて盛んに議論されました。



https://www.facebook.com/2022WSmatsudo/

松戸市による事業説明

新拠点ゾーンに関する事業の概要や、現状の特徴と課題について説明を行いました。市民にとっての賑わいや憩いの場となることと同時に、地盤の安定した台地上であることから防災拠点としてのポテンシャルが見込める点等、ポイントとなる事項を述べました。

千葉大学による学生提案のプレゼンテーション



地元の大学生であり、まちづくりやランドスケープデザインの専門科でもある千葉大学大学院園芸学研究科より、新拠点ゾーンに関する研究・提案のプレゼンテーションが行われました。事業計画や2019年ワークショップ（MATUDOING2050）成果の読解研究から、新拠点ゾーンの計画には「新しいライフスタイルに対応し多様な活用の可能性を広げること」「日常利用や防災などオープンスペー

スの機能を高めること」「地域の特性を活かした空間をつくること」が必要であることを再確認しました。提案では、多様なアクティビティを展開できる大きな芝生広場や、街を彩る四季彩の丘、新たな取り組みが生まれる社会実験の場など具体的な空間像が盛り込まれ、松戸中央公園と相模台公園を含む敷地全体を一体的に捉えた大胆なプランが示されました。参加者が新拠点ゾーンの「使い方」のイメージをふくらませるきっかけとなりました。

横張 真先生によるレクチャー



松戸が選ばれる街になるにはどのようなパブリックスペースが必要か、昨今のライフスタイル・ワークスタイルの変化における緑地の利用状況調査をもとにレク

チャーいただきました。在宅勤務者をはじめとした新たな緑地の利用者層が増えたことや、感染症リスクへの懸念から大きな公園・緑道・樹林地の需要が高まっている事がわかりました。新たな需要を踏まえて松戸の街の「使い方」を考える本ワークショップの心得として、常識にとらわれないこと、本当にほしい場を考えること、お互いの意見を否定しないこと、の3点を参加者にインプットしていただきました。

ワーキング① 街の「使い方」を考える



松戸のパブリックスペースをどのように使いたいか、どのような過ごし方をしたいかについて考えました。

【STEP 1 ひとりで考える】

街の「使い方」のアイデアを書き出しました。

【STEP 2 ふたりで考える】

参加者同士でペアを組み、アイデアを発表し合って意見交換を行いました。

【STEP 3 みんなで考える】

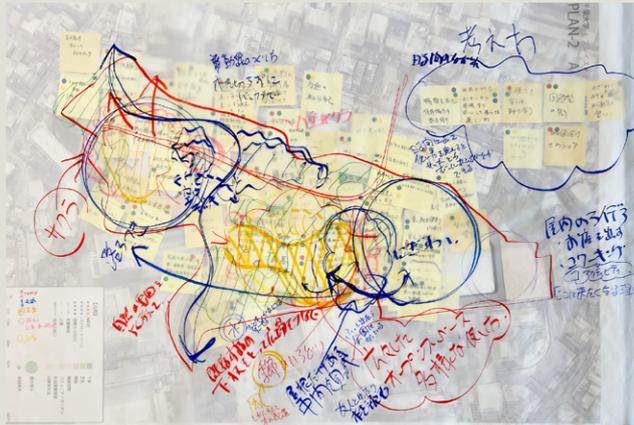
最後に全体を2グループに分け、各グループで発表・議論を行い、街の新しい「使い方」のアイデアについてまとめました。



イベント	盆おどり パブリックビュー（スポーツ観戦）
運動	バスケット(3on3)
	卓球
	ダンスの練習（全身鏡付き）
お葬式・お墓	屋外でお葬式・お墓（樹木葬）
映画	ナイトシアター・自然に囲まれて映画を観る
キャンプ	キャンプ
	たき火でやきいも
飲食	角打ちBAR
	「食」などをテーマにしたようなイベント
コミュニティ	友達と話したりちょっとした時間を潰せる場
	世代を超えた人々との交流ができる場所・イベント
ワーキング	外で友達と授業 誰かと一緒に仕事をする
眺望	気持ちの良い眺めの場がほしい
	富士山への眺望を望む
音楽	のびのび楽器を演奏したい
	屋外で演奏を聴きたい
買い物	フリーマーケット、マルシェ
	様々なお店が出店しているイベントに参加したい
休息	公園で緑を感じながらのんびりくつろぎたい（テラスやベンチ）
	日なたぼっこが・緑の多い所で昼寝
個人の活動	1人でゆっくりできる
子供の遊び	保育所の園児が安心して遊べる空間としたい
	子供安心して遊ぶ（安全・見通しが良い・アクセスが良い）
自然体験	自然探索をしたい 樹木をうまく使った空中散歩
斜面の遊び	長いすべり台
	長いそうめん流し
ペット	緑を残し、野生動物とも共存できるドッグラン
ハンモック	木のハンモックでコーヒーを飲んで本を読む
散歩	散歩をしたい
水に関して	水で楽しむ
本関連	好きな本を持ち寄って交流
	子供に読み聞かせ
防災	避難広場として使う

街の新しい「使い方」のアイデア（主なものを抜粋）

ワーキング② 新拠点ゾーンの「使い方」を考える



参加者全員で1つのテーブルを囲み、ワーキング①で発想した「使い方」のアイデアを具体的に地図上に配置しながら、全体でひとつの成果プランを作成しました。

【成果プランのポイント】

- ・駅からの軸上の新拠点ゾーン北側を「にぎわい」、相模台公園エリアを「落ち着いた」空間として整理する。
- ・広々としたオープンスペースで多様な使い方ができるようにする。
- ・時間によって使い方を変えることができる広場とする。
- ・友人とゆったりと本を読むことができるような落ち着いた場を設ける。
- ・パブリックビューイングや映画などを屋内と屋外の間領域で開催する。
- ・お店を出すことができたりコワーキングスペースとして使える施設を設ける。
- ・既存樹は残しながら下枝を整理し、見通しや広場の連続感を確保する。
- ・思い入れのある八重桜を残し、記憶を継承する。
- ・相模台公園の既存の桜を活かし、お花見ができる場を設ける。
- ・季節の彩りや虫も考慮した植栽計画とする。
- ・松戸中央公園エリアと相模台公園エリアを空中デッキでつなぐ。
- ・風など自然の要因も考慮した計画を作成する。

